

運慶と快慶

六田知弘・佐々木香輔 写真展

Unkei and Kaikei: Tomohiro Muda and Kyosuke Sasaki Photo Exhibition

快慶作

阿弥陀如来立像 安樂寺蔵



110111年

110月 3日(火) -

11月26日(日)

※会期中、作品の入れ替えあり

相田みつを美術館

相田みつを美術館

110111年

110月 3日(火) -

11月26日(日)

※会期中、作品の入れ替えあり

入場無料 ※但し、第一ホールにて開催の第八
二回企画展「生きること 書くこと」
は別途入館料が必要です。

開館時間 10時～17時
休館日 月曜※110月9日(月・祝)は開館。
(月曜開館による振替休日なし)

会場 相田みつを美術館 第二ホール
主催 相田みつを美術館



六田知弘・佐々木香輔 写真展

Unkei and Kaikei: Tomohiro Muda and Kyosuke Sasaki Photo Exhibition

国宝 無著菩薩立像 興福寺蔵

運慶作

運慶と快慶

1956年奈良県御所市生まれ。1980年早稲田大学育学部卒業。1982年よりネパールヒマラヤ山中のシェル

の村に暮らして撮影。1988年に最初の個展「自然や宇宙と人間との根源的なつながり」を速くに探りながら石や水、壁、道、そして東日本大震災の記録など様々な事象を対象に撮影し、写真展や出版を通じて国内外で発表する。また、「祈り」と「時」をキーワードに、仏像などの日本美術のほか、ヨーロッパやアジアの文化財や遺跡などの撮影も数多くてがける。

<https://www.muda-photo.com>

Tomohiro Muda

六田知弘 むだともひろ



快慶

六田知弘

佐々木香輔

運慶

日本の彫刻史において今なお燐然と輝く仏師、運慶と快慶。本展ではその運慶と快慶の名作たちを、六田知弘と佐々木香輔の写真によってご紹介いたします。

運慶の仏像は、リアリティあふれるダイナミックな作風が特徴です。その造形から発せられる独特の波動に導かれるように、長年に渡り運慶の仏像を追いかけてきたのが写真家の六田知弘です。存在感が際立つ運慶の仏像たちとの対峙は、撮影という営みにおいて無心の境地に達する数少ない瞬間だと六田は語ります。

一方、快慶の仏像は理知的で繊細な作風が特徴です。その美しさに夢中になつて撮影したのが写真家の佐々木香輔です。写されるのは、暗闇にゆつたりと浮かび上がる快慶の仏像の姿。光を巧みにあやつる快慶に呼応するかのように、佐々木のライティングが冴え渡ります。時を越えてシンクロする運慶と六田知弘、そして快慶と佐々木香輔。

運慶と快慶という鎌倉彫刻の巨匠を介して、二人の写真家の視点がどのように交わるのかをぜひご覧ください。

Unkei and Kaikei: Tomohiro Muda and Kyosuke Sasaki Photo Exhibition



重文 深沙大持立像
金剛峯寺蔵

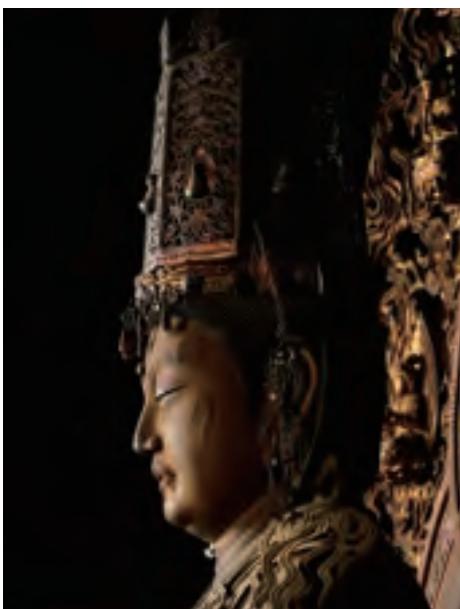
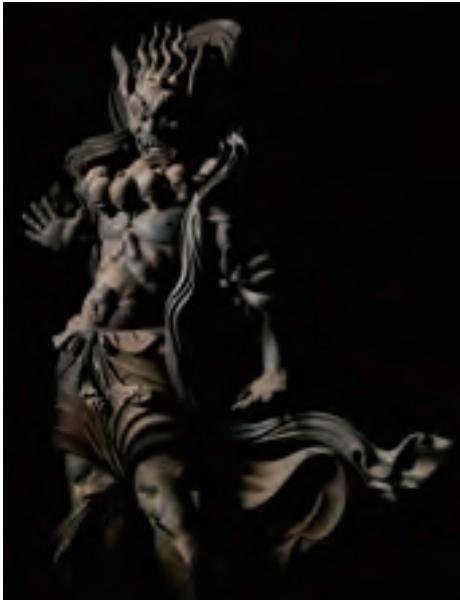
重文 弥勒菩薩坐像
醍醐寺蔵

重文 観音菩薩立像(文殊五尊像のうち)
安倍文殊院蔵

重文 孔雀明王坐像
金剛峯寺蔵

Kyosuke Sasaki

佐々木香輔 よさみきょうすけ



1985年宮城県仙台市生まれ。2007年日本大学芸術学部写真学科卒業後、作家の小川光三に師事し、仏像写真、美術出版を専門とする株式会社飛鳥園に勤務。2009年4月から2020年3月までは奈良国立博物館にて写真技師として勤務し、図録や研究書の多くを手がける。仏像の写真に取り組みつつ、現代社会に密接に関わる写真作品を同時に制作・発表している。

<https://www.kyosukesasaki.com>

国宝 無著菩薩立像
興福寺蔵

国宝 四天王立像 増長天 興福寺蔵

重文 帝釈天立像
瀧山寺蔵

重文 大威德明王像 称名寺光明院蔵